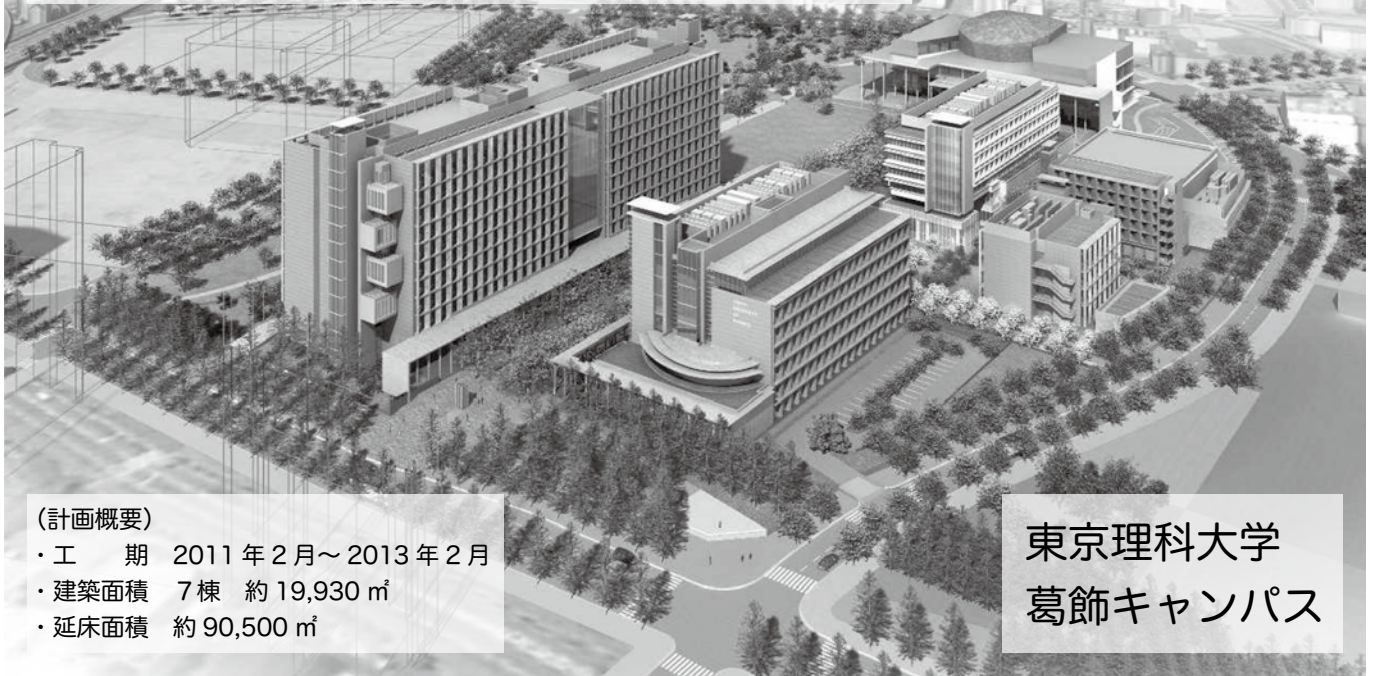


## 新キャンパスを見に行こう！

平成 25 年 5 月 18 日  
8 ページに FAX 申込書

## (計画概要)

- ・工 期 2011 年 2 月～2013 年 2 月
- ・建築面積 7 棟 約 19,930 ㎡
- ・延床面積 約 90,500 ㎡

東京理科大学  
葛飾キャンパス

## 建築学科 50 周年記念事業／平成 25 年度築理会総会のご案内

今年度の築理会総会は建築学科 50 周年事業と共催、下記のとおり葛飾キャンパスに於いて開催いたします。是非多数の皆様にご参加頂き旧交を温めるとともに、建築学科創設 50 周年を祝いましょう。

## 記

1. 日時 平成 25 年 5 月 18 日 (土)
2. 集合場所 講義棟 (B 棟) 1F (12:30)
3. 日程
  - ・キャンパスツアー 13:00～14:30
  - 施設概要等説明 13:00～13:45
  - 施設見学 13:45～14:30
  - ・受付 (第 1 回目) 14:30～
  - ・築理会総会 14:50～15:20
  - ・講演会 15:30～16:30
  - ・受付 (第 2 回目) 16:30
  - ・祝賀会 17:00～19:00
4. 会場 葛飾キャンパス  
  講義棟 (B 棟)、図書館棟  
  東京都葛飾区新宿 (にいじゅく) 6-3-1  
  最寄駅 千代田線金町駅 (北口下車徒歩 7 分)
5. 会費 5,000 円  
  振込先；郵便振込「築理会」宛  
  口座番号 00110-5-171952
6. 催物概要
  - ・講演会「建築の価値を伝えた人たちの軌跡に学ぶ」  
  佐野吉彦氏；(株)安井建築設計事務所  
  代表取締役社長 (昭和 54 年卒)
  - ・記念誌の贈呈
7. 参加申込  
  出席希望の方は下記事務局宛に「氏名・卒年・  
  連絡先」をメールまたは FAX にて 4 月 15 日まで  
  にご連絡ください。  
  (FAX は築理会会報 8 頁の用紙をご利用下さい)  
  東京理科大学工学部建築学科  
  e-mail : k50@rs.tus.ac.jp  
  FAX : 03-5876-1614

## 神楽坂から九段、そして金町へ

### 新「葛飾キャンパス」

建築学科が飯田橋から離れた。思えば1期生が神楽坂で入学したのが1962年の春であり、今年(2013年)の4月には52期にあたる新生が金町、葛飾キャンパスに入学する。一つの大きな歯車が回った感がある。ご存知のように葛飾に移る前には九段に7年間いた。2006年の築理学会報(a.b.c)の春号には“築理会35周年記念総会・懇親会「さようなら7号館、9号館」”の案内がでている。この時には神楽坂を建て替えて戻ってくるはずであった。しかしいろいろな経緯があり、葛飾キャンパスが誕生したのである。7号館、9号館はリニューアルされて残っている。

それでは、葛飾キャンパスを見てみよう。JR金町駅(常磐線・地下鉄千代田線)から歩いて7,8分、商店街(理科大学通りと命名)が終わったところにある。道路から敷地内に入るとまっすぐキャンパスモールがあり、突きあたりが図書館・ホール棟、モールの左側に研究棟が2棟並び、右側には講義棟、管理棟、それに体育館、実験棟がある。一言でいえばコンパクトにまとまっている。野田キャンパスのようにただっ広いだけでなく、神楽

坂のようにただ建物が建っているだけではない、キャンパスの雰囲気をもっている。それに特記すべきことは敷地の周辺を公園が取り囲んでいることである。学生にとっては、公園も同じ敷地のように感じるだろう。そして公園のむこうにはスカイツリーも見えている。

図書館・ホール棟には600人収容のホールがある、ちょっとしたコンサート、あるいは講演会などに利用される。そしてこの3Fレセプションラウンジ(5/18の祝賀会会場)には建築学科4期の中西繁氏の大きな壁画が飾られている(撮影時には未搬入)。建築学科は研究棟C棟の6階、7階に入っている。スペースは今までより少し広がっていると聞いているが、製図室などは従来とあまり変わらないようである。せっかく新しくなったのだから、少し残念なような気はする。とにかくここで、建築学科の新しい歴史は始まる。新しい学生(これからの卒業生)にとっては葛飾キャンパスが学生時代の思い出の場所となることだろう。しかし神楽坂キャンパスがなくなるわけではない。卒業生(築理会会員)の皆様には、理窓会倶楽部(PORT神楽坂内)など集う場所はある。

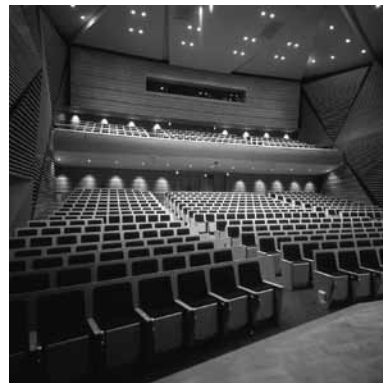
(写真・文 3期大岩昭之)



道路よりみる



講義棟のコンコース



ホール内部



図書館・ホール棟



左に管理棟、正面は研究棟



研究棟を見上げる

建築学科では、50周年記念行事の一環として「50年史」を出版する。学科50年の歴史を正確かつ詳細に記録に残すとともに、27名の卒業生からの寄稿を掲載する。今号ではひと足先に、その一部をご紹介します。

## 新たな伝統づくりがいま始まる

穂積 秀雄（1部1970年卒）  
二見・平野研究室

平成9年に地方都市の小さな大学に着任した。学生の就職先はその多くが社員数十名の工務店などである。鋼構造のほかに、学生の強い要請で木質構造の授業を担当している。



着任して年月の浅い頃、卒業式を前にした学生から問われた。「先生、卒業式には親が来てもいいんですか?」、「もちろんいいよ。招待状が行っていない?」、「おじいちゃんもおばあちゃんもいいんですか?」

聞くと、生まれ育った集落での初めての卒業になるとのことである。おそらく、親が大卒である割合は理科大の比ではなかろう。教員父母交流会などでは、「大学とは」という話からしている。学生は素直で熱心ではあるが、卒業した中学や高校は本人のみならず学校として受験戦争とは程遠いものであったであろう。

大学の評価や伝統は教育の質や研究の質だけで定まるものではなく、入学してくる学生の育った地域環境や家庭環境、学生生活の充実、卒業生の活躍など、もろもののもので醸し出されるものであろう。

いまや理科大の建築学科はそれらが充実した状況にある。歴史とともに培った名実ともに実力校である。

50年は、卒業生に新卒者から現役を退き改めて豊かな人生を目指す方々までが初めてそろう年月である。大学として新たな旅立ちのときである。

(新潟工科大学)

## 光陰矢のごとし

松塚 展門（1部1973年卒）  
二見・平野研究室



祝創立50周年、入学から四十数年が過ぎた。光陰矢のごとしである。岩国から上京し慣れない下宿、神楽坂に通学した時代が懐かしい。振り返れば幼いころから故郷の世界的アーチ橋である錦帯橋に魅せられ、その構造美を探求したいと思いつけていた。そのため小学校の卒業記念文集には工学博士になりたいと夢を記している。

在学中は古典ギターの演奏に没頭していた。もちろん建築学にも励んだ。特に二見秀雄先生の構造力学は強く印象に残っている。そのため卒論は二見・平野研究室に所属し、二見式速算法とD値法の比較をテーマとさせていただいた。その検証手段として当時は先端的であったコンピュータのプログラミングを学んだが、このことはその後の私の研究に大いに役立った。

近年錦帯橋平成の再建工事に携わる幸運を得た。私は錦帯橋のアーチ形状がカタナリー（懸垂線）であることを発見し、日本建築学会で発表していた。そのためこの再建工事では1673年創建当時の設計意図まで感じ取ることができた。現在は錦帯橋を世界遺産にするための努力をしている。岩国錦帯橋空港も再開した。ぜひ皆様方には錦帯橋をご覧になり世界遺産化のお力添えをいただきたい。

まだまだ未熟な私ではあるが今後は微力ながら社会に恩返しをしたいと思っている。今日までご指導いただいた全ての方々に感謝を述べまともとさせていただきます。（松屋産業・代表取締役）



## 神楽坂キャンパスの記憶

薩田 英男（1部1978年卒）  
真鍋研究室

今年から葛飾新キャンパスへ移ることもあり、懐かしい学生時代の神楽坂キャンパスの記憶をたどってみたい。北海道の地平線を見て育った自分にとって都道を挟んで建つ校舎群の狭さにはただただ驚かされた。入学案内に使われていたキャンパスの全景は外堀の上から撮影したも



ので、高校生のわたしは密集した東京のど真ん中に親水公園付の広いキャンパスの大学があると勘違いしてしまった。入学当初は、毎日そそり立った壁に囲まれて通学していた所為か、都会生活に不慣れなこともあり軽度の閉所恐怖症にかかっていたように思う。

そんなこともあり、自然に帰りたい思いで山登りの同好会に入った。因みにいまも公私共にお世話になっている真鍋教授が顧問を務めていた。部室のあった2号館の屋上から低層だった9号館越しに外堀や土手の桜を遠望し気を休めていた。また週末には上州武尊にあった同好会の山小屋に入り浸り、課題提出があるたびに山から下りてくるという日々を送っていた。建築学科は設計を始め、構造、環境の提出物が多く、4年で卒業できたのが奇跡のように思えるが、同好会の同僚の石田君が成績優秀で助けてくれたおかげと感謝している。

早いもので卒業して35年が経つ。現在は設計事務所を主催する傍ら、数年前から母校で非常勤講師を務めている。校舎群がひしめき合っただけで建つ様子は当時と変わらないが、8号館のリニューアルも含めて四方に出入り口ができ、外堀側から神楽坂までずいぶん有機的に街とつながり出している。面影の残る7号館を歩くとき、ふと青春時代の自分にかえったような錯覚に陥ることがある。

（薩田建築スタジオ）

## 受験の時よりも勉強をした学生時代

菅原 香織（1部1987年卒）  
内田研究室

入学から30年。大学では、建築の基礎を徹底的に教わり、考え抜くこと、自らやり遂げること、そして纏めることの難しさを学びました。模型を作る小人の出現を本気で願い、スキーバスの出発間際までパースを描き、課題提出日の寝坊に大慌てをし、卒論時には受験の時よりも勉強をした学生時代を懐かしく思い出します。



1983年入学の女性同期8人は皆、学業優秀、手先も器用。この仲間のノート無くして私の卒業はありませんでした。卒業時の「女子会」では一泊二日でフランス料理を堪能。その後も機会があると集まる仲間です。

卒業後2年目の夏、環境研究室の恩師である内田茂先生の訃報に接し、その後毎年、研究室の仲間とは、お墓参りを兼ねて集まります。

入学同期の「理科大83会」は、メールで仲間が繋がり、久しぶりに集まる機会も出来ました。「在学中は一度も話したことが無い」仲間とも、何処か通じる思い出があるのは、同じキャンパスで過ごした「縁」なのでしょう。

就職後25年間、女性の立場や育児に関する環境・制度の大きな変化を、育児休暇を5回取得しながら眺めてきました。そして、子供と共に過ごす中でも、大学で学んだ「考え」「まとめ」「やりとげる」力は発揮され、建築を通して物を見る視点の始まりは、あの武道館での入学式だと思うこの頃です。

先日長女に「建築学科に進みたい」と聞かされ大慌ての私。さて、娘の建築への扉は、何処に開かれるのかな。

（竹中工務店）

## 2012 年度 築理会賞決定 都内の住宅地を敷地にアイデア勝負を制する

平成 24 年度 (2012 年度) の工学部 I 部建築学科の卒業制作を対象に、最も優れた作品を選ぶ築理会賞の審査会が 2013 年 2 月 16 日、東京理科大学九段校舎で行われた。九段校舎で生まれたこの審査会も 5 回目となる今回が同校舎での見納め。来年度からは葛飾キャンパスへ場所を移すことになる。

審査対象は、教員の採点で選ばれた上位 15 人。審査に先立って卒業制作講評会を開催した。一人当たり発表 4 分、質疑応答 5 分の持ち時間で学生がプレゼンテーションし、教員や OB の審査員、非常勤講師が次々と質問しながら講評を述べる。築理会からは林孝夫会長 (69 年卒) をはじめ、計 5 人が参加した。

OB として審査に当たったのは、実務で建築設計を手掛ける 5 人。審査委員長は昨年に引き続き薩田英男氏 (薩田建築スタジオ、78 年卒) が務めた。このほか広谷純弘氏 (アーキヴィジョン広谷スタジオ、80 年卒)、村井達也氏 (日建設計、87 年卒)、川辺直哉氏 (川辺直哉建築設計事務所、94 年卒)、松川昌平氏 (000studio、98 年卒) という顔ぶれだ。

### ● 2012 年度学生プレゼンテーション者

学生氏名	作品タイトル	結果
1.猪俣 馨	呼吸する都市	
2.岡崎 絢	いちまい板の一年	
3.小松 裕幸	開家	
4.提坂 浩之	sp-ructure	
5.清水 明彦	目的のない道に	ファイナリスト
6.清水 貴史	発生_成長_消滅	ファイナリスト
7.高須 はるか	縦に灯れば	
8.高橋 卓	水の通り路	専任教員採点1位
9.武山 大樹	21の装飾	築理会賞
10.谷 堯洋	交錯する領域	
11.塚越 祐太	ready dormitory	
12.野村 隆太	雪の中のレコード	ファイナリスト
13.藤原 千尋	Uchi-Soto	
14.本田佳奈子	擁壁住居	ファイナリスト
15.田畑耕太郎	国定公園内における地熱発電所とその関連施設の計画	ファイナリスト

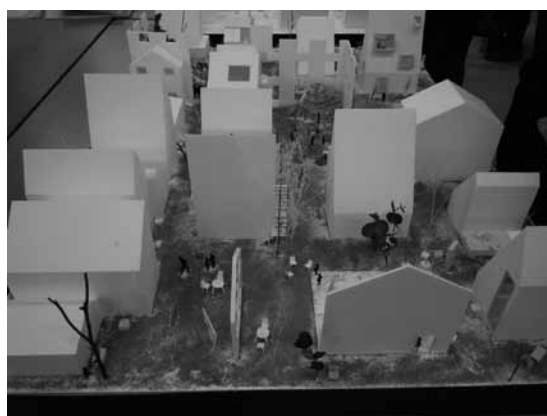
### ● 2012 年度 築理会賞選定結果

審査員	一次投票	二次投票	最終投票
村井達也(1987年卒)	6、9、12	9、12	9
川辺直哉(1994年卒)	4、12、14	9、14	9
松川昌平(1998年卒)	5、9、14	9、14	9
広谷純弘(1980年卒)	6、10、14	6、14	14
薩田英男(1978年卒) 審査員長	12、14、15	12、14	14
投票結果	ファイナリスト6人 = 5、6、9、12、14、15	最終2人 = 9、14	築理会賞 = 9

今年の卒業制作の傾向をひと言で説明するならば、「例年見られるドローイングや模型をとことんつくり込んだ作品は見当たらないが、相対的にレベルは高い」といえるだろう。大きくは、自然と向き合った設計と中心市街地の問題を捉えた設計とに二分される。

ファイナリスト 6 人の中で、決戦投票に残った 2 作品については、片方が木造密集市街地に、もう片方が既存住宅地のコンクリート擁壁に着目した。ともに敷地は東京都内だ。前者が武山大樹君の「21 の装飾」。木密地域から自分の残したい 21 のシーンを抽出して、新たな計画の意匠に生かした。後者は本田佳奈子さんの「擁壁住宅」で、十条に残る擁壁をそのまま内部に取り込んで新たな住宅地をつくろうという考え。決戦投票で 3 対 2 の接戦を制したのは「21 の装飾」だった。

(森 清 = I 部 1985 年卒、会報委員会)



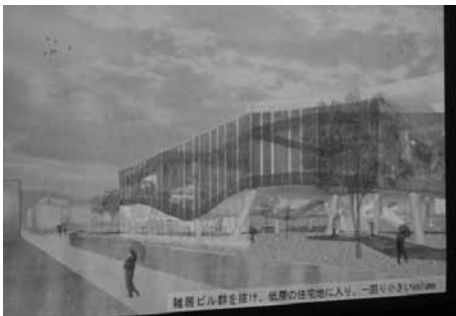
築理会を受賞した武山大樹君と受賞作品の模型写真。東京・西東京市の木造密集地で、残したい 21 のシーンをピックアップして新たな計画の意匠に表現した



決戦投票に残った本田佳奈子さんの「擁壁住宅」。サブタイトルは「都市の自然が織りなす風景」で、既存のコンクリート擁壁をポジティブに捉え、新たな住宅の内部に取り込んでいる



ファイナリストの6人。審査員による一次投票では1人当たり3票を投じて15人から6人が選ばれた



専任教員の採点で1位となった高橋卓君の「水の通り路」。敷地は東京・新宿で、地下水脈を取り戻すよう三つの敷地に新たな建築を建てる計画

築理会賞審査会の様子。手前から薩田氏、広谷氏、松川氏、川辺氏、村井氏。村井氏は上海に常駐している



卒業制作講評会の冒頭に5人の審査員を紹介した。いずれも工学部建築学科のOBで、建築設計を手掛ける



目に見えない支える技術こそが大切だと考える。

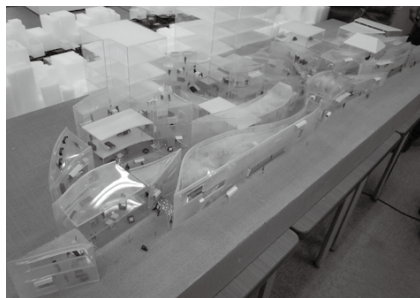
回転貫入鋼管杭ジー・エクス・パイル  
**G-ECS PILE®**

<http://www.sansei-inc.co.jp>

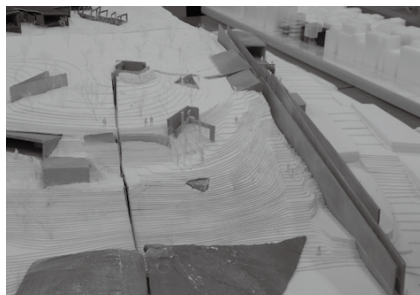
営業品目：建築工事における基礎杭の開発・販売・施工/建築工事における各種杭の技術提案

※ 技術開発スタッフ募集中

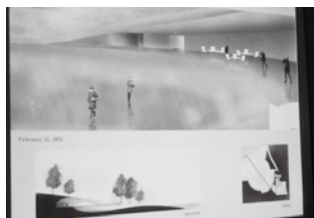
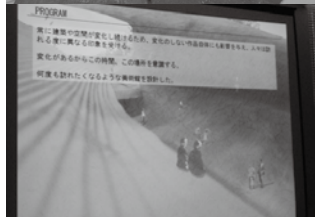
株式会社 三誠 本社 東京都中央区日本橋箱崎町4番3号 国際箱崎ビル3階 TEL:03-3639-5226 FAX:03-3639-8162  
関西営業所 / 北関東営業所 / 新潟営業所 / 東北営業所 / 茨城営業所  
SANSEI INC. (昭和48年 工学部建築学科 代表取締役 三輪富成・専務取締役 小川ひろし 他2名)



清水明彦君の「目的のない道に」。東京・中野駅北口の商店街をリニューアルする計画



東京・西郷山公園を敷地にする清水貴史君の「発生」成長「消滅」



アイヌ舞踊をテーマとした野村隆太君の「雪の中のレコード」



田畑耕太郎君の「国定公園内における地熱発電所とその関連施設の計画」

## 築理会賞受賞者発表

3月18日の学位記授与式において築理会賞の受賞者が発表され、林会長から各受賞者に賞状と副賞が贈られました。

- ・第一部
  - 学業成績優秀 布施 奈津美 (フセ ナツミ)
  - 卒業制作優秀 武山 大樹 (タケヤマダイキ)
- ・第二部
  - 学業成績優秀 吉田 和弘 (ヨシダ カズヒロ)
  - 学業成績/卒業制作優秀 瀬野 建人 (セノ ケント)

## 平成 25 年会費納入のお願い

現在、平成 25 年度の会費の納入をお願いしております。同封の振込用紙にて、お振り込み下さい。

今後のさらなる築理会発展のため、多くの方のご協力をお願いします。

年会費 3,500 円  
 加入者名 築理会  
 口座番号 郵便局 00110-5-171952

## 「編集後記」

JR金町駅から「理科大通り」を抜けると、緑に包まれた新キャンパスが姿を現す。メタセコイアの並木に挟まれたキャンパスモールに入ると、突き当たりにはシンメトリーな図書館・ホール棟が姿を現すーというのは、まだ足を踏み入れたことのない私の想像。5月18日、建築学科の「50年史」とともに葛飾キャンパスのツアーを楽しみに待ちたいと思います。(安達功= adachi@nikkeibp.co.jp)

### 築理会報 2013 春号

2013 年 4 月発行 Vol.51

発行所 : 東京都葛飾区新宿 6-3-1  
 東京理科大学工学部一・二部建築学科  
 築理会事務局 会員問合せ chikurikai@gmail.com  
 FAX 03-5876-1614

編集長 : 安達 功  
 編集委員 : 石神一郎、大岩昭之、野田正治、藤森正純、荒井真一郎、広谷純弘、増村清人、森清、伊藤学、松浦隆幸、山名善之、平賀一浩、栢木まどか、深野有紀、大槻尚美、野村奈菜子  
 印刷発送 : 中桜印刷株式会社

平成23年度 1級建築士 取得者

関東1都3県  
合格者占有率

**No.1**

総合資格学院  
関東1都3県 合格者占有率

関東1都3県(東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県)  
合格者 2,017名中  
当学院受講生 1,107名 **54.9%**

**V9**  
9年連続

1級建築士

他講習  
利用者  
+  
独学者

総合資格学院  
受講生



平成23年度 77名 合格!

東京理科大学 卒  
総合資格学院 現役受講生

**59.7%**

東京理科大学 卒業合格者 129名中  
当学院合格者 77名

※総合資格学院の合格実績には、模範試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。※都道府県合格者および卒業学校別合格者数は、(財)建築技術教育普及センター発表による。< 12月15日現在 >

**総合資格学院**

開講講座  
建築士

無料体験入学 実施中!!  
施工管理技士 宅建

お問い合わせはこちら!!  
03-3340-2812  
インテリアコーディネーター  
www.shikaku.co.jp 総合資格 検索

東京理科大学工学部建築学科50周年記念事業

## 参加申込書

FAX ; 03 - 5876 - 1614

MAIL ; k50@rs.tus.ac.jp

(該当する項目を○で囲み、必要事項をご記入願います)

平成25年5月18日開催の50周年事業に参加します

- すべて参加
- キャンパスツアーに参加
- 築理会総会に参加
- 講演会に参加
- 祝賀会に参加

氏名： \_\_\_\_\_ 旧姓 \_\_\_\_\_

卒年： 昭和・平成 \_\_\_\_\_ 年卒 ( I ・ II 部)

( \_\_\_\_\_ 研究室)

連絡先： TEL ; \_\_\_\_\_

Mail ; \_\_\_\_\_

(連絡事項)

---

※ (1) FAX による申込には本用紙をご利用ください

(2) 申し込みはなるべく平成25年4月15日(月)までにご連絡願います